

今福線レポート

桑野 浩之

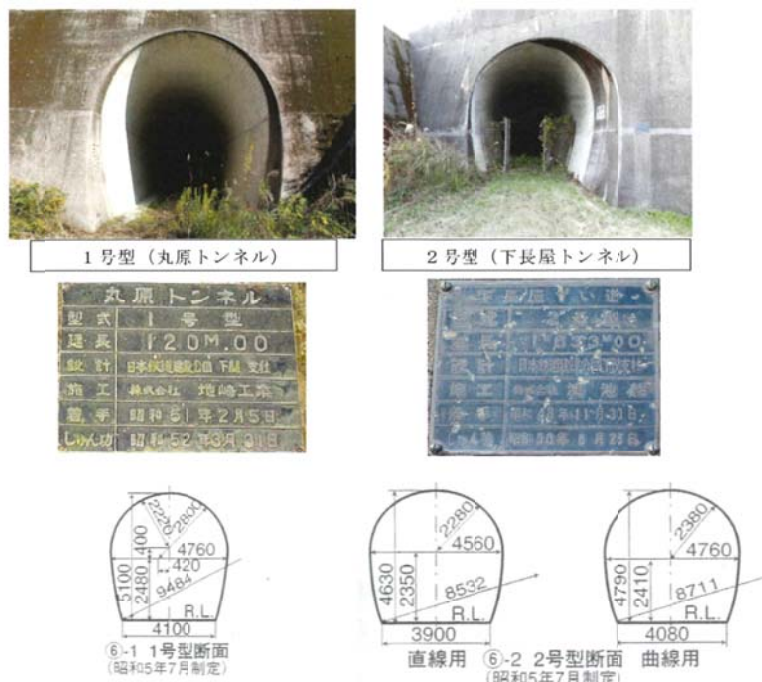
1. はじめに

今年で今福線研究分科会 7 年目の参加となりました。今年度の活動は、「今福線を活かす連絡協議会」での「今福線沿線活性化のための中期計画づくり」へのサポート、樋口輝久先生（土木学会中国支部、岡山大学大学院）との連携が主な活動となります。今年度の活動について報告します。

2. 平成 30 年度 第 1 回打ち合わせ H30. 8. 19(日) 11:00~15:30

午前中、H30 年度活動内容と日程についての打ち合わせを行いました。H30 年度の活動としては、今までの分科会での活動（今福線の構造物（橋梁上部工、橋梁下部工、トンネル等）の調査・計測等）に加え、「今福線を活かす連絡協議会」での「今福線沿線活性化のための中期計画づくり」へのサポート、樋口輝久先生（土木学会中国支部、岡山大学大学院）との連携を主な活動内容として進めていく方針等について話し合いをしました。また、10月27日~10月28日にかけて開催される予定の「第2回 全国未成線サミット in 赤村(福岡県)」の参加募集の話もしました。これは、来る 2020 年まさに東京オリンピック開催の年に、島根県浜田市で第 3 回未成線サミットが行われる予定であり、視察を兼ねてのことでした。

昼からは、新線トンネル（丸原トンネルおよび下長屋トンネル）の現地計測を実施しました。この計測の目的は、新線トンネルの内空断面には、電化区間の 1 号型と非電化区間の 2 号型の 2 つの型式があるが、なぜ、非電化区間として計画されている今福線（新線）に電化区間で採用される 1 号型の内空断面のトンネルが存在するか？の解明する糸口として 2 つの内空断面を細かく計測しました。



トンネル断面の標準図

3. 平成 30 年度第 2 回打ち合わせ H30. 11. 3(土)～11. 4(日)

3-1. 11月3日(土)

1日目は、下長屋トンネルおよび有福第四トンネルの現地調査を行いました。下長屋トンネルにおいては、トンネルの施工は、文献等により立抗による施工が示されていることから、立坑の跡や境界杭等が残っていないかとみんなでくまなく探しましたが見つかりませんでした。数少ない既存資料を手にあるいろいろな頭を働かせながら調査することは、遺跡等の発掘と同様に大変有意義なものでした。特にこの日は秋晴れで、最高の調査日和となりました。また、川を渡り急斜面を上り、山中の樹木に覆われた有福第四トンネルを発見した時は、「ハインリヒ・シュリーマン」になった気分でした。

なお、この日の懇親会においては、来る浜田市で予定の未成線サミットの話で大いに盛り上がりました。

3-2. 11月4日(日)

2日目は、マップの更新や土木学会の見学会(11月23日)のコース下見を兼ね、下府駅から丸原地区までの全線で、遺構の状況確認を行いました。

旧線起点の下府駅においては線路の反対側に一部平地があり(現在は草木でおおわれている)、この場所にSLを展示すれば、多くの住民の方へ今福線のPRになるのでは?と空想しながら現地の確認を行いました。この日も昨日に続き好天で現場日和でした。

11月23日には土木学会の見学会も予定されており、観光的な視点、土木遺産的な視点に立って、今後も調査を含め今福線の活動を続けて行けたらと思いました。

4. おわりに

技術士の今福線研究分科会の活動において、個人的には平成27年度の今福線のシンポジウム以来、大きな行事には参加できていませんが、分科会のメンバーとも親しくさせて頂き、非常に楽しく活動させてもらっています。今後は、旧線、新線において、線路が繋がったであろうと思われる浜田から広島までの計画路線全線をドローン等で空撮し、3次元設計の中で、線路、トンネル、橋梁等の構造物を描き、SLを走らせると言う大きな夢を持ちながら活動を続けることができたらと思います。